

第七話 宇宙に去った竜馬

ハレー彗星と共に宇宙からやって来た竜馬は、いま小惑星二八三五号となって再び宇宙に帰って行くことになりました。思えば海援隊長として海に乗り出した竜馬は、後藤象二郎と「船中八策」を作って近代航海術を教え、さらに陸では中岡慎太郎等と薩長連合を図って大政奉還への道を推進させました。しかし人間的には大柄だとか、ルーズだとか言っただけで批判も浴びましたが、そこは豪傑にありそうなこと。政治的には大きな仕事を残して天上の人となった訳です。

二〇〇五年の夏のある日、芸西村の天文台にやって来たわたしは、久し振りに望遠鏡を『竜馬の星』のある方向に向けてみました。そこには赤い星が一つ、多くの微光星たちを押しよせるようにして力強く進んでいます。

「オーイ、坂本先生！ 宇宙遊泳の気分は如何ですか？」
私は思わず叫びました。

「うーん極めて爽快じゃ」
と竜馬の遠い声。

「一緒のお竜さんはどうされたのですか？」

と聞いてみました。すると、

「あれはいま里帰りじゃ。それにしても宇宙はでかく広いのう。」

と、やや興奮したような竜馬の声が返ってきました。

「坂本先生、宇宙から見て、今の日本をどのように思われますか？」

これは私が一番聞きたい質問でした。

「そうじゃのう。世界の政治家たちにこの大宇宙を見せることじゃ。そうすればちっぽけな星の上での争いなんか起りやせん。ワツハツハツハ、、、」

竜馬の声が凜と響き渡りました。星の世界に行っても相変わらず太い竜馬でした。